中村塾 ZEN

2027年度｜開講講座・学年別進度・学び方・個別カリキュラム

一人ひとりに、異なる学びの道筋を。

小学生から高校生、大学受験生まで。学校の基礎学力の定着から難関大学・医学部・海外大学への進学まで、現在の学力と志望先に応じて、教材・課題・進度を一人ひとりに設計します。

「教える」だけでなく、「自ら学ぶ力」を育てる。

読む。書く。考える。自分の言葉で説明する。そして、もう一度解く。この学習姿勢を小学校から高校まで、すべての教科で大切にします。

授業の外でも続く個別指導

昼間の時間に、指導者自身が生徒一人ひとりの答案を見直し、次に必要な問題・記述課題・確認テストを準備しています。

本冊子のご案内

開講講座と学年別進度、教科別の具体的な学び方、志望学部別の個別カリキュラムを一冊にまとめました。

目次・本冊子の読み方

講座案内 → 学年別進度 → 教科別の学び方

第1部　開講講座・個別カリキュラム

3〜17ページ　開講科目、基礎・標準の進度予定表、志望学部別の学習モデル、推薦・総合型選抜、小論文・志望理由書・面接対策など。

第2部　小学生・中学生の学び方

18〜19ページ　算数のノート、国語の書写・記述、理科・社会のノート、英語の辞書・和訳・音読、数学の式と図形の学習。

第3部　高校生の英語・国語・数学

20〜22ページ　辞書と精密な和訳、現代文の論理的読解、古文・漢文、青チャートの例題反復と入試問題への応用。

第4部　高校生の理科・社会

23〜26ページ　物理・化学・生物、日本史・世界史の学習手順。

巻末

27〜28ページ　全教科に共通する学習手順と、個別カリキュラムの確認事項。

一人ひとりに、異なる学びの道筋を。

中村塾 ZEN｜開講講座・個別カリキュラム案内

学力の出発点を問わない

学校の勉強が十分に理解できない段階から、医学部・難関大学・海外大学を目指す段階、さらに全国トップレベルの学力を追求する段階まで。現在の学力を正確に把握し、必要な学びを一人ひとりに設計します。

「個別」とは、席を別にすることではありません

志望校・学部、学年、得意不得意、学習可能な時間が違えば、使用する教材も課題も異なります。全員に同じプリントを配り、同じ速度で進める指導ではありません。

授業時間外にも続く教材づくり

生徒が教室にいない昼間の時間にも、一人ひとりの答案と理解度を見直し、次に必要な問題、解説、確認テスト、復習課題を作成します。教材には、学力を伸ばしたいという指導者の情熱と、生徒一人ひとりへの愛情を込めています。

自由選択と学習計画

必要な教科・科目を自由に選び、基礎・標準の二段階を出発点として学習します。標準を確実に身につけた後、志望先に応じて発展・最難関の学習へ進みます。

個別指導の進行イメージ

現状を知る › 教材を個別設計 › 自力で解く › 確認・再設計

開講講座のご案内

小学生・中学生・高校生・大学受験生

開講講座のご案内小学生・中学生・高校生・大学受験生

小学生｜５教科

算数・国語・理科・社会・小学生英語。計算力、文章を正確に読む力、知識の整理、説明する力、家庭学習の習慣を育てます。

中学生｜５教科

英語・数学・国語・理科・社会。理科は物理・化学・生物・地学の各領域、社会は地理・歴史・公民を扱い、定期試験、高校入試、先取り学習に対応します。

高校生｜大学受験科目

英語、数学、国語（現代文・古文・漢文）、理科（物理・化学・生物を中心に必要に応じ地学）、社会（日本史・世界史・地理・公民系科目）を選択できます。

外国語講座

英語に加え、フランス語・ドイツ語を自由選択。発音、基礎文法、語彙、読解、作文、検定など、目標に合わせて学習します。

文章・選抜対策講座

小論文、課題作文、志望理由書、自己推薦書、活動報告書、面接・口頭試問、総合型選抜・学校推薦型選抜の個別対策を行います。

個別指導の進行イメージ

学年を確認 › 必要科目を選ぶ › 基礎／標準を判定 › 専用教材を作成

学習レベルと教材の選び方

「基礎」「標準」を出発点とする二段階

学習レベルと教材の選び方「基礎」「標準」を出発点とする二段階

基礎｜学び直しを含む

教科書の例題、基本語彙、計算、文法、用語の理解を確実にします。前学年の未習熟があれば戻って補います。解説を聞くだけでなく、解法や根拠を自分で説明できることを確認します。

標準｜典型問題を自力で解く

教科書章末・入試標準問題を用い、解法の選択、記述、資料読解、時間配分を練習します。誤答の原因を分析し、同種の問題を独力で解けるまで反復します。

標準の先にある発展学習

基礎・標準が固まった生徒には、難関大の過去問、融合問題、英語論述、数学の証明、理科の実験考察などを個別に追加します。全国トップレベルを目指す学習も、確かな基礎から組み立てます。

教材は「一律指定」ではありません

教科書・学校教材・標準問題集・過去問を組み合わせ、必要に応じて塾独自の問題、語法解説、答案用紙、再テストを作成。市販教材の名称や冊数より、本人の理解に合っているかを優先します。

学習の循環

予習課題→自力演習→授業で検証→復習ノート→確認テスト→数日後の再演習。理解と定着を確認して次の単元へ進みます。

個別指導の進行イメージ

基礎の確認 › 標準の定着 › 発展へ接続 › 答案で検証

小学生｜学年別の進度予定

算数・国語・理科・社会・英語

小学生｜学年別の進度予定算数・国語・理科・社会・英語

小学１・２年｜基礎／標準

基礎：数の概念、四則計算、短文読解、漢字、観察と身近な社会。標準：文章題の条件整理、理由を添えた説明、読書内容の要約。英語は音と基本表現に親しみます。

小学３・４年｜基礎／標準

基礎：わり算、分数・小数、図形、段落読解、理社の基本用語。標準：複数条件の文章題、資料の読み取り、根拠を示す短い記述。英語は基本語彙と簡単な文を学びます。

小学５・６年｜基礎／標準

基礎：割合・比・速さ・面積、説明文・物語文、理社の重要事項。標準：複合文章題、記述式読解、グラフ・実験結果・歴史的因果関係の説明。中学英語の基礎にも接続します。

個別教材の例

算数は計算の誤り方別プリント、国語は本文の根拠を示す記述課題、理社は図表の読み取りと説明問題、英語は音読・語順確認シートを作成します。

進度の判断

学年相当の内容を機械的に進めず、既習単元の理解度で課題を調整します。中学受験など別の目標がある場合は、出題範囲を確認して計画を再設計します。

個別指導の進行イメージ

低学年：習慣 › 中学年：基礎 › 高学年：応用 › 中学への接続

中学生｜英語・数学・国語

中１・中２・中３ × 基礎・標準

> **中学生｜英語・数学・国語中１・中２・中３ × 基礎・標準**

中学１年

> **基礎：英語の語順・be動詞・一般動詞、数学の正負の数・文字式・方程式、国語の段落構成。標準：時制の運用、比例・反比例、図形の説明、本文根拠に基づく記述。**

中学２年

> **基礎：英語の不定詞・動名詞・比較、数学の連立方程式・一次関数・図形、国語の要旨把握。標準：複文読解、関数と図形の複合問題、論説文の対比・因果関係の説明。**

中学３年

> **基礎：英語の受動態・現在完了・関係代名詞、数学の平方根・二次方程式・二次関数・相似、国語の古典と記述。標準：入試長文・英作文、関数と図形の融合問題、入試形式の記述答案。**

教材と確認の方法

> **基礎では学校教科書・基本例題を軸に、文法確認・計算再テストを個別作成。標準では入試形式の長文、数学の記述問題、国語の要約・説明問題を段階的に追加します。**

進度の目安

前期に既習内容の穴を補い、後期に学年内容の標準問題へ進むのが基本。受験学年は志望高校と内申・入試の比重に応じて演習量を調整します。

個別指導の進行イメージ

中１：基礎 › 中２：体系化 › 中３：入試演習

中学生｜理科・社会

中１・中２・中３ × 基礎・標準

中学生｜理科・社会中１・中２・中３ × 基礎・標準

中学１年

基礎：生物の分類、物質の性質、光・音・力、地学の基本、地理の地域理解、歴史の時代区分。標準：観察・実験データの読み取り、地図・統計・年表の比較。

中学２年

基礎：化学変化、電流、人体・気象、歴史の主要な変化。標準：化学反応の数量関係、回路計算、実験考察、歴史的出来事の原因と結果の説明。

中学３年

基礎：運動・エネルギー、イオン、遺伝・天体、公民の政治・経済・国際社会。標準：分野横断の計算と記述、複数資料の比較、公民の論述、高校入試総合問題。

教材の組み合わせ

基礎は図解・用語確認・短い計算問題、標準は実験考察・グラフ・資料問題を中心に、弱点単元別の独自プリントを作成します。

学校進度への対応

学校ごとの単元配列は異なります。定期試験前は学校範囲を優先し、通常期は理解の不足している単元と先取り学習を組み合わせます。

個別指導の進行イメージ

用語を理解 › 資料を読む › 因果を説明 › 入試形式へ

高校生｜英語・国語・数学

高１・高２・高３ × 基礎・標準

高校生｜英語・国語・数学高１・高２・高３ × 基礎・標準

高校１年

基礎：英語の文型・時制・準動詞と基本語彙、数学Ⅰ・A、現代文の論理と古典文法。標準：英文解釈・短文英作文、典型問題の解法選択、評論の要約と古文読解。

高校２年

基礎：英文構造の定着、数学Ⅱ・B・Cの履修範囲、現代文・古文・漢文の基本事項。標準：長文読解・英作文、数学の複合問題、現代文の記述と古典の実戦読解。

高校３年

基礎：受験範囲の抜けを単元別に補修し、必要に応じ数学Ⅲ・Cの未習を完成。標準：大学別の長文・自由英作文、数学の記述・融合問題、共通テストと個別試験の国語演習。

教材の選定例

英語は教科書・文法問題集・精読用英文・長文・英作文課題、数学は教科書例題・青チャート等の典型問題・過去問、国語は論理構造の書き込み・記述添削を組み合わせます。

授業で重視すること

英語は訳の根拠、数学は式を立てる理由、国語は本文の根拠を言語化。模範解答を写すだけでなく、初見問題に再現できる理解を育てます。

個別指導の進行イメージ

高１：基礎 › 高２：標準 › 高３：志望校別

高校生｜理科・社会・情報

高１・高２・高３ × 基礎・標準

高校生｜理科・社会・情報高１・高２・高３ × 基礎・標準

高校１年

基礎：物理基礎・化学基礎・生物基礎など履修科目の概念と計算、歴史・地理・公共の基本事項。標準：実験考察・資料比較・因果関係の説明。情報Ⅰはデータと基本的な情報処理の理解。

高校２年

基礎：選択した物理・化学・生物の単元体系、日本史・世界史・地理等の通史・地域理解。標準：理科の典型計算と記述、社会の史資料・統計読解、情報のアルゴリズム・データ活用。

高校３年

基礎：受験範囲の未習・弱点を再確認。標準：物理の立式、化学の理論・無機・有機、生物の実験考察、社会の論述・資料問題を大学別に演習。地学は必要に応じ個別検討します。

教材の選定例

理科は図解・基礎問題・標準問題・実験考察、社会は教科書・資料集・年表・論述課題、情報は教科書と演習課題。受験科目の有無と配点に応じて重点を変えます。

進度は志望校から逆算

科目・範囲・配点は大学・学部・方式で異なります。最新の募集要項を確認し、不要な範囲の学習を増やさず、必要科目を確実に仕上げます。

個別指導の進行イメージ

履修確認 › 科目を絞る › 標準演習 › 過去問で検証

医学部志望｜３年間の学習設計

基礎から始める場合のモデルケース

医学部志望｜３年間の学習設計基礎から始める場合のモデルケース

高１相当｜１年目

数学：中学の穴→数学Ⅰ・Ａの基本例題→数学Ⅱの導入。英語：基本文法・語彙→精読→短い長文。理科：基礎科目の概念と計算。毎週の再テストで未定着を残しません。

高２相当｜２年目

数学：数学Ⅱ・Ｂ・Ｃ、志望先に必要な数学Ⅲへ進み、Ⅰ・Ａを反復。英語：長文・英文解釈・英作文。理科：選択２科目を体系的に学び、標準問題を完成させます。

高３相当｜３年目

数学：記述・融合問題、英語：論理読解・英作文、理科：総合問題・実験考察。共通テスト、大学別過去問、必要な面接・小論文対策を並行します。

数学を２年間で構築する例

前半：計算・関数・図形と数学Ⅰ・Ａの基礎。中盤：数学Ⅱ・Ｂ・Ｃの典型問題。後半：数学Ⅲを含む必要範囲と標準問題の反復。実際の順序と期間は既習状況・授業時間で変更します。

重要な前提

医学部入試は高難度です。３年間での合格を保証するものではなく、現在の学力、学習量、必要科目、志望校の難度を診断して、到達可能性を定期的に再評価します。

個別指導の進行イメージ

１年目：土台 › ２年目：標準 › ３年目：実戦

医学部・看護・薬学の個別対策

同じ医療系でも、必要な学びは異なります

医学部・看護・薬学の個別対策同じ医療系でも、必要な学びは異なります

医学部｜弱点集中型

英語・数学が十分にできる場合は重複指導せず、化学の平衡・有機構造決定、物理の立式、生物の実験記述など、失点の集中する単元を答案分析から抽出します。

看護学部｜読解・小論文・面接

患者の自己決定、医療者の責任、高齢化、地域医療などを扱い、①資料要約②対立する価値の整理③原因分析④具体策⑤反論の検討⑥字数内での論述を練習します。

薬学部｜理科と研究への関心

化学・生物の基礎と標準問題を重視。創薬、医薬品の安全性、薬剤耐性、服薬支援、研究倫理などの課題を用い、科学的な根拠と社会的な影響を説明する力を育てます。

推薦・総合型選抜

看護・薬学・医学の志望理由は職業への憧れだけでは不十分です。経験→疑問→学びたい専門分野→その大学での学修→将来像を具体的につなぎ、面接で説明できるようにします。

個別教材

医学系英文、科学資料、倫理的な事例、字数別小論文、面接想定質問を志望先に合わせて作成し、答案の再提出と再検証を重ねます。

個別指導の進行イメージ

志望別の課題 › 読解・分析 › 記述・添削 › 面接で説明

文系・法学部の進路別指導

文学・法学・経済・社会科学の選択

文系・法学部の進路別指導文学・法学・経済・社会科学の選択

文学部・人文系

言語・文学・歴史・哲学などの関心を探り、読書と文章読解を深めます。英語・国語・地歴の基礎を固め、資料を根拠に論じる記述力を養います。

法学部

表現の自由とプライバシー、平等、刑罰と更生、AIと責任などを題材に、原則と例外、賛成と反対、反論と再反論を整理し、論理的な小論文を書きます。

経済・経営・社会科学系

統計や社会問題を読み取り、主張と根拠を区別。学部によって数学の重要性が異なるため、受験科目と大学での学びの両方から科目選択を検討します。

３年間のモデル

高１：学問分野を知り、英語・国語・数学の基礎を確立。高２：学部候補を比較し、必要な地歴公民・数学を選択。高３：大学別過去問、論述、推薦書類に集中。

教材と授業

評論文・英文・史資料・統計・法的事例を用いた読解と記述。感想で終わらず、定義→論点→根拠→反論→結論という思考の筋道を練習します。

個別指導の進行イメージ

学部を知る › 科目を決める › 論証を鍛える › 入試へ接続

理工・情報系の学習設計

数学・理科を軸に、将来の学びから逆算

理工・情報系の学習設計数学・理科を軸に、将来の学びから逆算

理工学部

数学Ⅰ・A→Ⅱ・B・C→必要に応じⅢ・Cを体系化。物理は現象のモデル化と立式、化学は理論から無機・有機へ。基礎から標準問題、記述・融合問題へ進みます。

情報系

数学の関数・確率・論理的思考を重視し、情報Ⅰのデータ活用・アルゴリズムなどを必要に応じて学習。学科の内容や入試科目は大学ごとに確認します。

高１・高２・高３の進度

高１：数学Ⅰ・Aと基礎理科の理解。高２：数学Ⅱ・B・Cと選択理科の標準演習。高３：必要な数学Ⅲ、理科の総合問題、志望大学の記述・過去問へ。

部活動と両立する例

引退前は平日30〜45分の予習・復習を固定し、週末にまとまった演習。引退後に時間を増やします。時間は一例であり、通学や活動日程に合わせて個別調整します。

使用教材

教科書例題、典型問題集、分野別確認テスト、大学別過去問。計算ミス、概念理解、立式、論証のどこに問題があるかを分析して教材を選びます。

個別指導の進行イメージ

高１：基礎 › 高２：標準 › 高３：実戦

推薦入試・文章指導講座

小論文・作文・自己推薦書・面接まで

推薦入試・文章指導講座小論文・作文・自己推薦書・面接まで

個別対策の対象

学校推薦型選抜、総合型選抜、指定校推薦等で求められる小論文、課題作文、志望理由書、自己推薦書、活動報告書、学修計画書、面接・口頭試問に対応します。

文章指導の８段階

①募集要項を確認 ②本人の経験を整理 ③志望学部・大学を研究 ④問いと主張を設定 ⑤構成案作成⑥初稿執筆 ⑦論理・具体例・表現を添削 ⑧書き直しと口頭説明。

小論文の学部別テーマ

看護：患者の尊厳と医療資源。薬学：科学技術と安全性。法学：権利の衝突と制度設計。情報：AIと社会的責任。課題文型・資料型・テーマ型など、出題形式別に練習します。

本人の言葉を大切に

志望理由書や自己推薦書は、塾が代筆するものではありません。本人の経験と考えを深め、事実に即した説得力のある文章を自分で書けるように指導します。

学力試験との両立

推薦だけに依存せず、必要な評定、教科試験、共通テスト、面接の条件を確認。一般選抜との併願可能性も踏まえ、受験全体の計画を作成します。

個別指導の進行イメージ

経験を掘る › 論点を組む › 書き直す › 面接へ接続

海外大学・全国トップ水準へ

高い目標にも、現在地からの道筋を

海外大学・全国トップ水準へ高い目標にも、現在地からの道筋を

全国トップレベルを目指す

基礎・標準を十分に身につけた後、難関大の初見問題、数学の厳密な論証、英語の高度な読解・論述、理科の総合考察などを通じ、答案の質と再現性を磨きます。

海外大学への進学準備

希望国・大学の入学条件、必要な英語資格、学業成績、エッセイ、面接等を個別に確認します。国・大学・出願方式で要件が異なるため、具体的な対応範囲は相談のうえ決定します。

基礎からの生徒にも同じ姿勢

難しい教材を与えることが高度な指導ではありません。基本事項を自分の言葉で説明し、標準問題を独力で解ける段階を確実に作ることが、その先の高い学力につながります。

授業外で行う準備

一人ひとりの誤答や目標を踏まえ、昼間の時間に必要な教材を作り分けます。解説、演習、再テスト、記述答案の添削まで、個別に設計することを大切にしています。

進路相談から計画更新まで

志望学部の比較→大学候補の選定→学力診断→年間・月間計画→学習と確認→計画の見直し。受験まで１年・２年・３年のどの段階でも、現実的な優先順位を定めます。

個別指導の進行イメージ

目標を明確化 › 学力を診断 › 教材を作成 › 成果を再検証

受講と個別相談のご案内

学ぶ科目も、学び方も、一人ひとり異なります

> **受講と個別相談のご案内学ぶ科目も、学び方も、一人ひとり異なります**

最初にお聞きすること

> **学年・現在の成績・学校の学習状況・志望大学や学部・入試方式・部活動・家庭学習に使える時間・これまでの教材・得意不得意を確認します。**

学習進度予定表の作成

> **学年別・科目別に、基礎と標準の到達目標、使用教材、家庭課題、確認テストの時期を整理します。必要な単元を先取りし、弱点が見つかれば前学年の内容にも戻ります。**

自由選択の考え方

> **英語だけ、数学だけ、理科だけ、あるいは小論文や推薦対策だけの相談も可能です。得意科目は自学を生かし、指導が必要な部分に授業を集中させる方法も考えます。**

大切にする指導

> **生徒の理解が深まる教材を、その生徒のために作る。授業で説明して終わりにせず、予習、記述、復習、再演習を通じて、自分の力で学び続ける力を育てます。**

ご相談について

開講科目の詳細、教材、授業回数、学習計画は個別にご案内します。進度予定表はあくまでモデルであり、学習の進み具合に応じて変更します。

個別指導の進行イメージ

相談 › 診断 › 計画 › 授業・見直し

小学生｜学び方の基本を育てる

中村塾が教えるのは、問題の答えだけではありません。問題を正確に読み、書き、考え、分からない箇所を確かめ、自分の言葉で説明する。その学び方を、小学生のうちから一人ひとりに身につけさせます。

算数｜式と計算を区別し、美しいノートを作る

ノートには日付・単元名・問題番号を明記し、考え方を示す「式」と、計算を進める「計算欄」を区別します。計算欄は自分で位置と広さを考えて設け、数字や位をそろえて書きます。答えが合っていればよいのではなく、途中の考え方を他人にも説明できるノートを作ることを目指します。誤答は消して終わりにせず、どこで間違えたかを書き残し、後日もう一度解き直します。

国語｜文章を書き写し、自分の言葉で答える

文章をノートや中村塾専用の原稿用紙に丁寧に書き写すことから始めます。指導者は生徒の理解度や文章の特徴に合わせて、記述式の問いを事前に用意します。生徒は本文を読み返し、根拠となる表現を探し、答えを自分の言葉で書きます。添削を受けた後は、なぜその表現が適切なのかを考え、書き直します。書写は単なる作業ではなく、語句、文のつながり、内容を注意深く捉えるための訓練です。

理科・社会｜教科書を書き、理解を確かめる

教科書の重要な説明や図表をノートに書き写し、用語の意味や出来事の因果関係を確かめます。ただ写すだけで終わらせず、指導者が用意した問いに答え、学んだことを短い文章で説明します。「書けた」ことと「理解できた」ことを区別し、理解が曖昧な箇所を自分で発見する習慣を育てます。

小学生英語｜意味・語順・音を結びつける

単語の意味とつづりを確かめ、短い英文を正確に書き、語順に沿って意味を考えます。理解した英文を繰り返し音読し、書く学習と声に出す学習を結びつけます。

中学生｜自分で学び直す力を育てる

中学生｜「自分で学び直せる力」をつける

国語｜読解の枠組みを作る

読解力は、文章を眺めたり、設問に答えたりするだけでは十分に育ちません。何が述べられ、なぜそう言えるのか、どの表現が根拠になるのかを整理する必要があります。小学生から続けてきた書写を土台に、段落ごとの要点、対比、因果関係、筆者の主張を捉え、記述問題に自分の言葉で答える練習を重ねます。読めないのではなく、読み取るための手順が身についていない場合もあります。その手順を授業で具体的に教えます。

英語｜辞書・文法・和訳・音読を一体化する

教科書の英文を一文ずつ丁寧に読みます。まず辞書で語義と品詞を調べ、文法規則に従って主語・動詞・修飾関係を確かめます。語義を機械的に並べるのではなく、構造と文脈に照らして意味を確定したうえで、自分が理解した内容を正確な日本語に書く。これが和訳の基本です。「何となくこういう意味だろう」という推測だけで済ませません。英文を書き、和訳し、訂正した後は、意味を意識して音読します。言葉を目・手・耳・声を通して身につける学習を徹底します。

数学｜式の一行一行と、自分で描く図形

途中式を省略せず、等号の意味を守り、計算の根拠が追えるように書きます。方程式や関数では変形の理由を確認し、図形では平面図形・空間図形を自分の手で描き、条件を書き込みます。解答を見て理解したつもりになるのではなく、何も見ずに再現できるまで解き直します。

理科・社会｜教科書と学校ワークを単元ごとに結びつける

学校の教科書とワーク、ワークの解説・解答を一組として扱い、単元ごとにノートを整理します。ただし、解説を丸写しして終わる学習ではありません。指導者が用意した確認問題に取り組み、分からなかった箇所について教科書や解説を読み返し、その内容を自分の言葉でまとめます。読み返す必要が生じたところに、理解を深める機会があります。用語の暗記に加え、現象の仕組みや歴史的背景、因果関係まで説明できることを目標とします。

全教科に共通する指導の流れ

① 正確に読む → ② 書いて整理する → ③ 自力で解き、説明する → ④ 資料に戻る → ⑤ 自分の言葉で書き直す → ⑥ 後日、解き直す。

一人ひとりのために、教材を準備する

中村塾では、全員に同じプリントを配って同じ説明をするだけの授業は行いません。指導者自身が授業時間外の昼間にも、一人ひとりの理解度、つまずき、目標に応じて問いや確認問題、記述課題を準備します。どの教材を、どの順序で、どの程度まで学ぶべきかを考え抜く。その手間を惜しまないことが、中村塾の個別指導です。

高校生｜英語の学び方

学力は、授業時間ではなく、自ら積み重ねた学習によって形成される

90分の授業を受けたという事実と、90分で実力がついたという判断は別のものです。授業は、理解の方向を定め、誤りを正し、次に何を学ぶかを明確にする場です。その後、自分の頭と手を使い、何度も確かめて初めて知識は自分のものになります。中村塾は、安易な近道を約束せず、学習の厳しさと、その先にある確かな成長を伝えます。

英語｜辞書を引き、文法に従い、精密な和訳を作る

① 語義を推測で済ませない

英文を一文ずつ読み、辞書で語義・品詞・自動詞と他動詞の区別・語法・熟語を調べます。語の意味を並べるだけでなく、文法規則と文脈に照らして、なぜその意味になるのかを確認します。

② 日本語として正確に訳す

主語と述語、修飾関係、時制、否定、指示語、論理のつながりを明らかにし、理解した内容を正確な日本語で書き上げます。「何となくこういう意味だろう」という感覚的な読みを、根拠のある読解へ変えることが目的です。

③ 書いた後に、英文を音読する

和訳を完成させたら、英文を繰り返し音読し、語順と構造を音声でも確かめます。読む・書く・声に出す学習を結びつけ、表現が定着するまで取り組みます。

④ 自習時間を確保する

難関大学を目指して英語を重点科目とする場合、英文精読に1日2時間、可能な時期には4時間程度を充てることも一つの目標です。ただし、学年・現在の学力・他教科・体調を考慮し、実際の配分は個別に設計します。英会話の時間を増やすだけで、精密な読解力が自動的に身につくわけではありません。

高校生｜現代文・古文・漢文

国語｜正確な日本語で考え、判断し、表現する

現代文は、試験のためだけの教科ではない

文章を正確に読み、筆者の主張とその根拠を区別し、自分の考えを適切な言葉で表現することは、大学受験だけでなく、その後の人生の判断にも不可欠です。言葉の意味や論理を曖昧にしたままでは、情報や周囲の意見に流されやすくなります。中村塾では、国語を「生きるための思考の基礎」と位置づけます。

現代文の具体的な学習手順

① 評論・随筆などを精読し、重要語句と対比・因果・具体例の関係を確認する。② 段落ごとの要旨を、自分の言葉でノートにまとめる。③ 筆者の主張を支える根拠を本文から示す。④ 記述問題では、設問が求める内容を分析し、本文の根拠に即した答案を書く。⑤ 添削後に書き直し、どこで読み違えたかを説明できるようにする。

読書についても、単に冊数を競うのではなく、読んだ内容を説明し、疑問を立て、考えを文章にする習慣を重視します。

古文・漢文｜現代語とは異なる言語体系として学ぶ

古文・漢文を、現代日本語の感覚だけで読み進めることはしません。古文では単語の意味、活用、助動詞、敬語、係り結びを確認し、漢文では句法、返り点、再読文字、重要語を正確に押さえます。辞書と文法参考書を手元に置き、一語一句に根拠を求めて現代語訳します。

基本教材は、適切な辞書と文法参考書を軸に選び、必要に応じて本文演習や入試問題を加えます。難しいのは特別な裏技を知らないからではなく、地道な確認を省略しやすいからです。

高校生｜数学の学び方

数学｜青チャートの例題を7周し、応用へ「解説を読んで分かった」から「自力で答案を書ける」へ
数学は、解法を眺めるだけでは身につきません。中村塾では、青チャートの例題を繰り返し解くことを基本とし、7周を一つの標準的な反復目標とします。ただし、回数をこなすこと自体が目的ではありません。各回で理解の質を確かめます。

第1周｜自力で考え、解説を読み、自分の答案を書く

まず自力で取り組み、解けなければ解説を読みます。その場で理解できた範囲を、式の意味や解法の流れが分かる答案として書き直します。解説の丸写しではなく、自分が説明できるかどうかを確認します。

第2〜3周｜解説への依存を減らす

再び白紙から解き、前回の誤りを点検します。条件の読み取り、方針の選択、式の展開、論証の省略がないかを確かめ、模範解答に近い筋道を自力で再現できる状態を目指します。

第4周以降｜解法を定着させ、忘却を点検する

問題の特徴から適切な方針を選び、解答の流れを自分で組み立てられるかを確認します。第５〜7周では、時間を空けた再演習、苦手例題の重点反復、類題との比較などを行い、定着を検証します。

入試問題・共通テストで応用力を検証する

例題の理解が進んだ段階で、共通テストの過去問や志望校の入試問題に取り組みます。応用問題では複数の基本事項を組み合わせる力が求められます。解けなかった場合は、どの例題・どの基本原理が不足していたのかを特定し、そこへ戻って補強します。

一人ひとりの教材と進度を、指導者自身が組み立てる同じ学年・同じ志望校であっても、理解の深さや弱点は異なります。中村塾では、授業時間外にも指導者自身が一人ひとりの答案と進度を検討し、必要な問題、復習課題、確認テストを準備します。学習の厳しさを伝えるのは、生徒が自分の力で学べるようになってほしいからです。

高校生｜物理の学び方

共通する指導原則

参考書を読み、図や言葉で整理し、自分の力で問題を解く。分からない箇所に戻り、理解した内容を自分の言葉で書き直す。この学習過程を理科・社会でも徹底します。学校の授業や配布プリントを受け取るだけではなく、自ら知識の構造を作ることを重視します。

物理｜見えない力を、見える図に変える

物理の出発点は、目に見えない力の作用を図に表すことです。物体を取り出して力の向き・大きさ・作用点を示す力の図（自由物体図）を自分で描き、運動の状況を正しく読み取る力を養います。まず基礎参考書を精読し、典型問題を繰り返して図示と立式の基本パターンを身につけます。

基礎から入試問題へ

典型問題をおおむね2周し、必要に応じて2〜3回確認したら、入試問題に挑戦します。複数の力や条件が重なった問題について、①対象物を決める、②作用する力を図示する、③座標軸と運動方向を定める、④保存則や運動方程式を選ぶ、⑤結果を検証する、という手順を自力で再現できるかを確かめます。苦手な生徒はこの段階を重点的に補強します。

難関大学の物理に必要な読解力

難問では公式を知っているだけでは足りません。問題文から物理的状況、制約条件、相互作用の構造を読み解き、適切なモデルに置き換える力が必要です。図を描き直し、条件を読み返し、現象を頭の中で再構成する訓練を行います。これは現代文の精読にも通じる、構造を見抜く読解力です。

高校生｜化学の学び方

化学｜知識と原理を結びつける

暗記だけでも、計算だけでも終わらせない

知識分野｜構造・反応・条件を整理する

無機化学・有機化学では、物質の性質を個別に暗記するのではなく、組成・分子構造・官能基・反応条件・生成物の関係を整理します。化学式・化学反応式を正確に書き、反応が起こる理由まで説明できるようにします。教科書・参考書・資料集を照合し、系統立てたノートをつくります。

理論分野｜基本問題を数多く解く

物質量、濃度、気体の状態、熱化学、化学平衡、酸塩基、酸化還元などは、温度・圧力・濃度といった条件を読み取り、どの法則や関係式が適用できるかを判断する訓練が欠かせません。基本問題を十分に解いておけば、入試の複合問題でも計算処理が足かせになりません。

「頭の中で実験する」力を育てる

化学の理解とは、条件を変えたときに何が起こるかを因果関係に沿って予測できることです。例えば、化学平衡では温度・圧力・濃度の変化に対する平衡移動を、反応速度では温度や触媒の影響を、反応の仕組みから説明します。仮説を立て、予測し、実験事実と照合して考えを修正する。この科学的推論の過程をノートに言語化します。

中村塾の指導

基礎参考書を自分で読み解き、理解した内容を自分の言葉で説明する力を育てます。教員は理解の抜けを確認する問いを用意し、必要な単元へ戻る学習順序を個別に組み立てます。「教われば分かる」から「自分で読み、考え、解決できる」への転換を目指します。

生物｜図解・資料集・自作ノート

細胞から遺伝、生命活動のエネルギーへ

学習の基本順序

生物は、まず細胞の構造と機能を学び、次に遺伝情報とその発現、さらに代謝とエネルギーの出入りへ進むと、知識のつながりを理解しやすくなります。実際の進度は学校の履修範囲と志望大学の出題傾向に合わせて調整します。

細胞｜描き、名称を覚え、機能を説明する

細胞小器官を自分で描き、名称・構造・働き・関連する現象を整理します。ミトコンドリアなら細胞呼吸、葉緑体なら光合成というように、形と機能を結びつけます。単なる名称の暗記で終わらせず、「なぜその構造が必要なのか」を説明できるようにします。

遺伝・代謝｜流れを図式化する

DNAの複製、転写、翻訳、遺伝子発現の調節を、矢印と短い説明で一連の流れとして示します。ATPの生成と利用、光合成、呼吸なども、物質とエネルギーの出入りが分かる図にまとめます。図・文章・実験結果を相互に行き来する力を養います。

資料集を使い、自分だけの参考ノートを作る

教科書だけ、参考書だけで済ませず、学校配布のカラー資料集を必ず活用します。必要に応じて図版をコピーして貼り、説明を自分で書き加えます。時間のかかる作業ですが、一度整理したノートはその後の問題演習で参照できる、自分専用の学習資料になります。

考察問題への発展

知識を整理した後は、実験条件、対照群、測定結果、グラフを読み取る問題に取り組みます。「何が確かめられ、何はまだ言えないか」を文章で説明する力が、共通テストから難関大学の記述問題までの土台になります。

高校生｜日本史・世界史

日本史・世界史｜自分で問いを作る

暗記の前に、時代の因果関係と構造をつかむ

日本史｜参考書の精読から記述へ

日本史では、教科書で全体の流れを確認したうえで、詳しい参考書を精読します。山川出版社『詳説日本史研究』などを用い、各項目について「なぜ起こったか」「何が変わったか」を自問し、20〜50字程度で答えを書きます。例えば北条泰時が御成敗式目を制定した背景を、武家社会の裁判・統治の必要性と結びつけて説明する練習です。

理解が曖昧な箇所ほど読み返す

すぐに書けない場合は資料を読み直し、内容の大筋がつかめた段階で自分の言葉に置き換えます。用語集は概念・人物・制度の意味を正確に確認するために使います。選択式の試験で迷わず正答する力も、こうした記述による理解の蓄積から生まれます。

世界史｜地域別の縦軸と同時代の横軸

世界史では中国史・東南アジア史・ヨーロッパ史・南北アメリカ史など、地域ごとの流れを整理したうえで、同じ世紀に各地で何が起こっていたかを地図と年表で結びます。ノート左側に時代ごとの世界地図と主要な出来事、右側にその背景や影響を書き込みます。

一つの世紀を一週間かけて完成させてもよい

例えば13世紀を扱うなら、今日は東アジア、次は西アジア、その次はヨーロッパというように、少しずつ地図と年表を埋めます。政治・交易・宗教・技術などの要因をつなぎ、地域間の影響を説明できる状態を目指します。地図という空間の軸と、年表という時間の軸を交差させることが世界史の基本です。

選択と教材の個別化

日本史か世界史かは、本人の関心に加え、志望学部・入試科目・学習時間を踏まえて決めます。教員は単元別の問い、20〜50字記述、地図・年表作成課題、確認問題を個別に準備し、基礎から標準、さらに入試水準へと進めます。

全教科に共通する学習の順序

中村塾が大切にする学習の順序全学年・全教科に共通する原則

1 読む・調べる教科書・参考書・辞書・資料集を読み、語句や条件を正確に確認します。

2 書く・図にする文章を書き写し、計算の途中式を残し、力の図や地図・年表を自分で描きます。

3 自分の言葉で説明する分かったつもりで終わらず、なぜそうなるかを短い文章や答案にします。

4 解く・添削する自力で解き、誤りを見つけ、解説を読み、正しい答案を再構成します。

5 時間を空けて再び解く2〜3日後などに再演習し、忘れていた箇所を補強します。

6 次の課題を個別に決める理解度、志望先、部活動や生活時間を踏まえ、次回までの予習課題を設定します。

個別カリキュラムの確認事項

個別カリキュラムの確認事項学習計画は一人ひとり異なります

学力の現在地学校の授業内容の理解度、既習単元、答案の書き方、得意・不得意を確認します。

志望と受験までの期間学部・学科の選択、入試方式、必要科目、1〜3年の残り時間を整理します。

教材と進度基礎・標準の二段階から始め、定着後に志望先に必要な発展学習へ進みます。

推薦・総合型選抜小論文・作文・志望理由書・自己推薦書・面接等は、学部別に個別設計します。

ご案内本冊子の進度表と学習モデルは一例です。実際の教材と授業内容は、本人の到達度を見ながら見直します。